

藤塚小だより

学校教育目標：生きる力にあふれる子

～「自分らしさを発揮する力」の育成を目指して～

令和3年 12月 24日
横浜市立藤塚小学校
学校だより 1月号
TEL (351) 2314
FAX (351) 7349

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fujizuka/>



ワタリドリの挑戦

校長 藤田 陽子

12月4日、第60回横浜市立小学校体育実技発表会が行われました。これは、各区の代表校が、学習を通じて高めた体育実技について発表する会です。今年度は、本校6年生が保土ヶ谷区を代表して出場しました。

実技発表会への参加を決定したときから、6年生全員の取組が始まりました。彼らが目指したことは、「学年目標『ワタリドリ』のように、みんなで動きを高めて発表会を成功させる!」ということでした。この目標に向かい「ダブルダッチ」という長縄跳びの練習をスタートさせたのが、6月のことでした。

縄跳びは縄を跳び越すタイミングが大切ですが、2本の縄を一度に、または交互に跳び越すダブルダッチは特にそのタイミングをつかむことが難しく、最初は跳ぶことさえもままならない日々が続きました。さらに、感染症対策のため、友だちと一緒に活動することが制限され、練習が十分にできない期間もありました。

そのような中、児童の意欲を支えたのは、自分たちのたてた目標と、一緒に努力をする友だちの存在でした。友だちと一緒にほんの少しの技能の高まりを喜び、跳べた回数の変化や取り組んでいる技について継続して記録を続けました。

10月、分散登校が終わり、ようやく学年全員での活動が再開しました。毎朝、登校後から始業前までの短い時間に体育館でダブルダッチに取り組む6年生の姿が見られるようになりました。縄の回し手、跳んでいる児童、次に跳ぶタイミングを確認している児童、それぞれが息を合わせ、そしてタイミングを合わせている様子から、ダブルダッチがまさにチームの活動であることが伝わってきました。児童の努力の陰で、2人の6年担任も放課後の時間を練習時間にあて、ダブルダッチの技を高める工夫を探り続けました。

こうして迎えた当日、6年生はこれまでの努力の積み重ねを、素晴らしい実技として表すことができました。また、これまでの取組を次のような思いで振り返る児童の姿がありました。

「みんなで協力したことを忘れずに、できないことや初めてのことも乗り越えていきたい。」

「6年生のみんなで実技発表会に向けて努力したことを一生忘れない。」

同じ目標に向けて支え合い、ともに力を伸ばした仲間への思いを深める6年生の姿に、胸があつくなりました。多くの困難の中、実技発表会という大きなチャレンジを通し、学年で大きく成長したワタリドリ・6年生に改めて拍手を送りたいと思います。

昨年に続き、今年も感染症の影響で学校生活や行事等が変更になるなど、多くのご迷惑をおかけしましたが、いつもあたたかいご理解・ご支援をいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。来年も、藤塚小学校職員一同、力を合わせて教育活動に取り組んでまいります。どうぞよろしく願いいたします。